



北星学園余市高等学校

校長 安河内 敏 (問い合わせ窓口) 塩見 耕一・田中 亨

〒046-0003 北海道余市郡余市町黒川町19丁目2番1号
TEL 0135-22-6211 (代表) ・ 0135-23-2165 (職員室) FAX 0135-22-6097

ホームページ <http://www.hokusei-y-h.ed.jp>
Facebook <https://www.facebook.com/hokusei.yoichi>
E-MAIL hokuseiy@hokusei-y-h.ed.jp

学校法人 北星学園

北星学園大学大学院
北星学園大学
北星学園大学短期大学部
〒004-8631
札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731 (代表)

北星学園大学附属高等学校
北星学園女子中学校
〒004-0007
札幌市厚別区厚別町下野幌38番地
TEL 011-897-2881 (代表)

北星学園女子高等学校
北星学園女子中学校
〒064-8523
札幌市中央区南4条西17丁目2番2号
TEL 011-561-7153 (代表)



北星 余市

友達と先輩と、賑やかに、静かに



Tsunagaru Project

2009年度より続くプロジェクト。地域のこと、世界のこと、もっともっと知りたい。そして、北星余市の“今”、リアルに伝えたい。

授業や課外活動で、地域や人とつながる。取り組みが、少しずつ実を結んでいます。

※詳細は、●●●●へ。

北星余市×地域・人



Hokusei Gakuen Yoichi High School
北星学園余市高等学校



私たちは、
ひとを信じ、
教育を
信じています。
だから私たちは、
きみを信じています。

教育方針——

1. キリスト教の精神にもとづき、教育が行われます。それは、みんなが力を合わせて愛し合い、助け合って生きていくことを共に考えていこうというものです。
2. 明るく、健康な身体を鍛え、自然や社会を正しく科学的に判断できる力を養うことを、教科指導を通して追求します。



3. 生徒を集団の中で育て、個人や集団の自主性、自発性、自治能力を育て、高めていきます。
4. 教育活動を支える優れた教師集団作りを大切にしています。
5. 父母、教師、生徒が一体となった教育を進めています。

また、きみに
信じられる
教師、学校でありたい。

北星余市に関心を持つ方々へ

本校はアメリカ人宣教師サラ・クララ・スミス女史の北星学園建学の精神を受け継いだ全日制普通科のキリスト教主義学校です。1965年の創立以来、地域の教育の機会を失った子どもたちを受け入れ、1988年から全国の高校中退者を積極的に受け入れるようになりました。現在は高校中退者が全校生の約40%、また不登校経験者が全校生の60%近くに及んでいます。もちろん、本校の教育に憧れ、現役で入学してくる生徒もおります。

本校は集団を基礎に教育することで、優しさと強さを兼ね備えた人間を育てることに力を注いできました。生徒像はその時代によって変化してきましたが、精神は首尾一貫しています。通信制高校などでは得ることのできない人間教育を、本校では昔ながらの方法で行っています。皆様にも、ぜひ一度、本校の教育に触れていただきたいと思います。



北星学園創立者
サラ・クララ・スミス



本校の特色—— INDEX

1. 一人ひとりを尊重する教育 ●
2. やめた学年から入学できます ●
3. 出身や年齢の異なる
バラエティ豊かなクラスメート ●
4. 生徒の適正にあわせてわかる授業、進路指導 ●●
5. 地域と一体となった寮・下宿生活(全生徒の約9割) ●●●
6. “生徒が主役”
…活発な行事を通じ、優しさと強さを身につける ●●●
7. Q&A、進路指導 ●●●
8. 余市町の紹介、Tsunagaru Project ●●●●



違っていい。



生徒も教師も
一人ひとりを尊重する。

一人ひとりを尊重する教育 —— 目的地は一つではない

我々大人が肝に銘じなくてはならないことは、若者の目的地は一つではないということです。大人が遠い昔に悩み、乗り越えてきたことに、今まさに直面しているのが若者です。そして悩みの中身は時代によって微妙に異なります。大人や教育界の価値観は、まだまだ学歴社会、競争社会の原理から抜け切れていません。「これからは、違う世界もあるのでは？」…時代に敏感な若者はこの狭間で悩むのです。

若者には立ち止まり、考え選択するための時間が必要です。そして、同じ悩みを語りあえる仲間が必要です。本校は20年以上悩む若者を受け入れてきました。教師は生徒一人ひとりとことんつきあう教育を実践しています。平均値ではなく、個々人の取り組みを評価します。そして、教師と生徒、大人と生徒、生徒と生徒がお互いに信頼関係を築き、切磋琢磨しながら、それぞれの目的地を切り拓いていく力の養成を大切にしています。



本校のあゆみ——

- 1965年：開校
- 1978年：北大との共同研究始まる
- 1978年：「暴力追放宣言」決議
- 1980年：研究紀要（創刊号）発行
- 1984年：『授業でつづる』出版
- 1987年：『北の大地に灯かかげて』出版
- 1988年：全国から中退者の転・編入制度開始
- 1990年：服装自由化実施
- 1991年：完全週5日制実施
- 1992年：『親たちの卒業文集』（創刊）

- 1995年：『やりなおさないか君らしさのままで』出版
- 1997年：『学校の挑戦』出版
- 2000年：『いま君が輝く瞬間』（写真集）出版
- 2003年：『続・やりなおさないか君らしさのままで』出版
- 2005年：『春をつかむ』出版
- 2007年：『しょげてんな!! ひとりで悩む君へ
「北星余市」から15人のエール』出版
- 2009年：Tsunagaru Project スタート
- 2011年：『親たちの卒業文集』（創刊20周年記念号）
- 2014年：開校50周年

やめた学年から
入りなおす。
ストレートに進学する。
全国から
自分を信じる生徒たち。



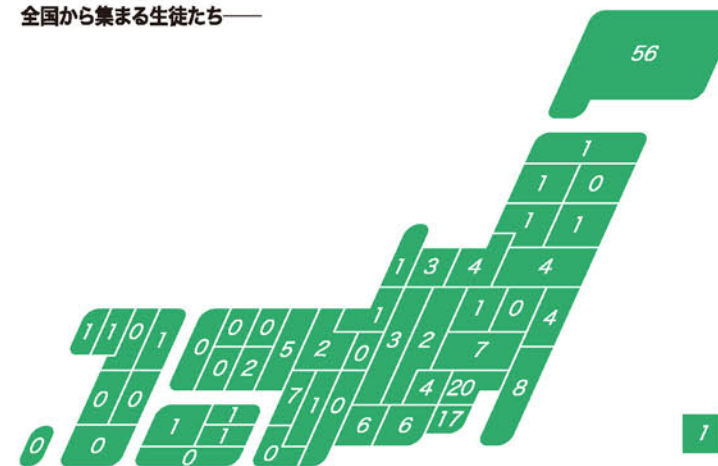
やめた学年から入学できます —— パラエティ豊かなクラスメート

本校が全国から中退者の転・編入を受け入れる制度をスタートしたのは1988年です。当時は全国的に学校が荒れ、若者は悩みを非行や校内暴力という形で表現していました。以降、本校教師は時代ごとの若者の悩みに向き合い、また生徒たちから様々なことを教わってきました。そんな中で、若者が大人になりもっとも必要となること…好奇心や忍耐力、柔軟性、考察力、そして冒険心。これらを学ぶ教育をかたちづくってきました。

そんな本校の教育が評価され、本校には全国からパラエティ豊かな生徒が集まってきます。やんちゃな子ども、おとなしい子ども、勉強が得意な子ども、苦手な子ども…彼らに共通することは「高校生活を楽しもう」「絶対に卒業しよう」と自分を信じて来ることです。そして、時に静かに一人で、時に異なる文化を持つ生徒たちと本気で関わり合い、支え合い、「自分らしさ」や活躍の場を探求していきます。



全国から集まる生徒たち——





「学ぶことは楽しい」

勉強は普通の高校に比べて楽だが、それよりも先生たちが本当に分かるまで教えてくれる。いままでは質問するのに勇気が必要だった。「そんなのも分からないの?」。まして、間違えれば笑われ、冷やかな目が鋭く突く。極めつけは授業の進行を妨げるなって言わんばかりの目があつた。分からないから学校に行くのに、そんな大切な意味さえも忘れてしまうほど萎縮していた。気兼ねなく質問できる、分かるまで教えてくれる。当たり前のことが北星では行われているということだ。

(過去とたたかう力をもらったよ・草刈龍「しょげてんな!!」より)

生徒の適正にあわせた わかる授業、進路指導

本校の授業はガリガリと受験勉強を強いて、競争に勝たせる指導ではありません。偏差値で輪切りにされ、画一化された若者が来ている学校ではないのです。生徒は本校に来て教師と信頼関係を結び、学ぶ喜びを発見していきます。

全ての授業の根底に流れているのは、教師による「手作り感」です。どの教科でも、教科部会が重要な役割を果たし「どうしたら生徒が興味を抱くか、理解するか、感動するか…」等々、常に課題を検討しながら、プリント教材などでの創意工夫に努めています。

また、生徒の得意分野もさまざま、この学力の混在が、友人同士の教え合いにつながっています。人に教えるということが、身につけている力をさらに確実にしていきます。

さまざまな体験で感性を伸ばす 2・3年総合講座

生徒たちが自ら積極的に学んでみたい、体験してみたいと思うような授業を実践しています。講師には、地域の芸術・芸能の専門家を始め、その道の第一線の方々を学外から招いています。

とことんつきあう教師 職員室は憩いの場

授業に限らず、本校の教師陣はみな熱心です。生徒の意欲や悩みにはとことんつきあいます。生徒との信頼関係を築くのは、人と人とのぶつかり合いだと思っているからです。

そんな一つの現れが本校の職員室です。昼休みはもちろん、10分休みの時間や放課後にも生徒が自由にやってきては、教師や友人たちと語り合っています。職員室は生徒たちの憩いの場なのです。

■2・3年総合講座 (1講座選択)

| | |
|---------------|--------------|
| 就業体験 | 自動車メンテナンス |
| 社会福祉 | アンサンブルを築もう! |
| 手話 | ギター |
| 世界の文化をのぞいてみよう | ゴスペル |
| 後志探訪 | 琴 |
| 書に親しむ | 北星太鼓 |
| 油絵とシルバージュエリー | 時・季節を知るクッキング |
| クラフトワーク | 合気道 |
| 凧 | 空手道 |
| 美術ともの作り | HIP HOPダンス |
| 木彫 | ヨットとスノーボード |
| チョークアート | |



関わる中で自律を学ぶ。 来るべき自立のために。

ホームルーム指導を 大切にします。

人は人と関わる中で成長します。人は人と関わるから、自分を知ることができます。逆に、人と関わらないように生活していこうとすると、生活そのものが成り立たなくなっていきます。だから、本校では人との関わりをとても大切に考えています。

学校生活の基本となる舞台はクラス。朝から夕方までの授業も、学校行事の取り組みもクラスで行う。だから、本校ではホームルーム指導を大切にしています。

縁あって同じクラス、同じ学年で巡り合うことになった人間が、様々な出来事を通じて、集団としても、一人の人間としても、互いに成長し合うことを教育活動の中心に据えています。

地域と一体となった 寮・下宿生活

本校は約8割が道外生です。道内遠隔地出身者も加えると、9割近くの生徒が下宿生活を送っています。

寮・下宿の管理人は、余市のお父さんお母さんとして、家庭的な雰囲気でも温かく見守ってくれます。寮・下宿内のことだけでなく、学校生活やときにはプライベートなことまで親身になって相談に乗ってくれる。そんな温かい人たちがばかりです。同じ寮の仲間は助け合い、先輩は良きお兄さんお姉さんとして助けてくれます。

ここでは自分の好きなように生活していた地元や我が家のような生活はありません。しかし、それ以上に大切な人と人との関わり方を、身を持って学ぶことができるのです。

二つの学舎、 二つの先生

水谷 修



本校を応援してくださっている「夜回り先生」から、親たちの卒業文集「北の星」へ寄せられた言葉（抜粋）

私と、君たちの母校北星余市高校との歴史は古いです。20年以上前からの関係です。私は、横浜市の高校の教員となる前には、横浜で私塾を営っていました。私塾といってもはりの受験のためのものではなく、中学校でいろいろ問題行動を起こしたりする子どもや、さまざまな障がいを持ち、普通の塾では受け入れてもらえない子どもたちや、不登校で苦しむ子どもたちのための学習塾でした。

多くの子どもたちが星の高校への進学を望みな

がら、受け入れてもらえず、定時制高校へと進学していきました。彼らを何とか望み通りの星の高校に入学させたい。私は、神奈川や東京の多くの私立高校を訪ねました。でも、ほとんどの高校の受験担当者のことは冷たいものでした。そんな中、私は全国で四つの高校を、私の子どもたちをその過去を問わずに受け入れてくれる場所として探し出しました。北星学園余市高校、山形の羽黒高校、長野の篠ノ井旭高校、千葉の房総学園、この四校です。多くの子どもたちをこの4校に送り込みました。そして、多くの子どもたちが、新しい明日に向けて羽ばたいていきました。

これらの4校の中でも、私が最も注目したのが、君たちの母校でした。その理は簡単です。君たちの母校には、二つの種類の学舎としての教室があります。学校という教室と、下宿という教室。また二つの種類の、大切に君たちを育てる先生たちが居ます。明日への知識や技術、体力を身につけてくれる学校の先生たちと、君たちに家庭や社会でのありかたを教えてくれる下宿のお父さん、お母さん。多くの子どもたちを育てていただきました。私にとって、君たちの母校北星余市高校は、最も大切な仲間であり、先輩です。

子どもたち、君たちに最後にメッセージがあります。君たち子どもたちは、とても弱い、もろい存在です。なぜなら人生の経験があまりにも少ないから。多くの人と触れ合いがあまりにも少ないから。だから、嫌なことがあればすぐにあきらめ、逃げ、つらいことがあれば、すぐに押しつぶされ、さらにはふてくされてしまいます。また、一人の大人に裏切られれば、大人なんてと、一人の先生に裏切られれば、先生なんて、学校なんてと。一人の友だちを失うと、自分は孤独死にたいと、こころを閉ざしてしまいます。でもね、子どもたち、大人はいったい何人いますか。先生はいったい何人いますか。友だちはいったい何人作ることができますか。

子どもたち、君たちは、北星余市で、こころを開いて人と触れ合えば、必ず互いがわかり合えることを学んだはず。閉ざしたこころを開くことで、確かに嫌なこともあるけれど、それ以上に多くの仲間や先輩、人生の師を得ることができることを学んだはず。子どもたち、つらいときは叫んでいい、寂しいときは泣いていい、いつもこころを外に出そう。必ず受け止めてくれる仲間がいます。守ってくれる大人たちがいます。



大切なのは
好奇心と冒険心。

暗い夜も、
明けない夜はない

中退者の福・転入制度開始から初めて出版された本「やりなおさないか君らしさのままで」(1995)より
深谷哲也校長(当時)の序文(抜粋)

日本における一年間の高校中退者十一万数千名、また小学校・中学校での一年間の不登校・登校拒否(30日以上欠席)の生徒約7万5千名といわれる今日、そして、毎年累積されていくこれらの若者たち。本来ならそれぞれの輝かしい人生の前途に向かって前進しているはずなのに、なぜそういう状況に追い込まれてしまうのでしょうか。人はだれ一人同じ顔をもたないように、一人ひとり皆違う人間なのです。一人ひとりが違う人間だからこそ、一人ひとりは貴重な存在なのです。それを点数というごく短いモノサシですべての若者を計り、差をつけ、分断してはならないのです。分断されたからといって、自分を卑下する必要も本来ないのです。

それなのに、日本人のもつ学歴主義、大学・高校受験における偏差値主義、その影響をモロに受けている中学校・小学校教育、これらは若者たちの心と体に大きな歪みを生み出させてしまっているのです。具体的に述べるとキリがないほどです。北星学園余市高校の教育は30年間、前述の教育矛盾を一身に背負った若者への教育でした。「非行」を「自立」に、「低学力」を「わかって楽しい授業」に転換させる闘いでした。(中略) 暗い夜も、明けない夜はない。若者らしくしっかりと前を見つめ、本人の意志さえしっかりしていれば、北星余市のように君を支える学校があり、すでに君の前を歩いている先輩がいることを知らせたい。それが、本書が君たちや、君たちの父母に送るメッセージです。 — 中退者数などは1995年当時のものです。現在は不登校経験者の割合が増えるなど、雰囲気もずいぶん変わりましたが、本校の教育の原点はここにあり



■ 授業で、行事で、日常で —
生徒とあゆむ教職員たち

photo 余市教育福祉村で草刈りのボランティアに励む1年生と本校長

“生徒が主役”…活発な行事を通じ、
優しさと強さを身につける

学校行事は、一つの目標に向かって、様々な葛藤の末に一つになる感動があります。感動は自信につながります。生徒たちは行事を通して自信を育み、仲間の大切さに気づき、人と関わることの必要性を実感するのです。さらに様々なことに挑戦してみたい! という生徒は学校行事以外の様々な活動にも取り組んでいます。

それぞれが見つめる
部活動の魅力

本校の部活動は、それぞれが放課後の楽しみのひとつとして、自分達で取り組み方を見つけています。部員が少ないながらも、わきあいあいと汗を流しているテニス部や柔道部。自分を表現する喜びを芸術にぶつけ、毎年全道大会へ出場する美術部や写真部、書道部など。運動部と文化部を掛け持ちする生徒も少

なくありません。部活では珍しいヨット部は全道レベルの力をもっており、インターハイや国体の北海道代表になったこともあります。また、軽音楽部もライブが活発です。

年々活発になる
ボランティア活動と私学助成活動

近年はボランティア活動も盛んとなり、有志によるボランティア局や生徒会の呼びかけによる私学助成委員会など活発に行われています。ボランティア局では、地元の老人ホームや養護施設のイベントに参加したり、出し物を企画して披露したりしています。また、校庭の花壇の整備や、夏には海水浴客で賑わう余市の浜の清掃などには多くの生徒が参加しています。私学助成委員会は、署名活動時期に、余市町内や札幌の大通で、街頭署名活動をPTA・教職員と行っています。

■部活動の種類

| 【運動部】 | 【文化部】 |
|-----------|------------|
| サッカー部 | 放送局 |
| 硬式テニス部 | 図書局 |
| バレーボール部 | 美術部 |
| 柔道部 | ヨット部 |
| 野球愛好会 | 書道部 |
| バスケット同好会 | 写真部 |
| 卓球愛好会 | 軽音楽部 |
| バドミントン同好会 | 演劇愛好会 |
| ダンス同好会 | ピアサポーター同好会 |
| | ボランティア局 |



※本校では、地元はもちろん、小樽で、札幌で、全国で、部活やボランティア活動、自主企画を展開しています。かけ持ちする生徒も数多く、それぞれが人生で最も大切な資質を開花させていきます。

- 4月
入学式
対面式
- 5月
PTA総会
生徒総会
1年生研修会
- 6月
強歩遠足
- 7月
校内弁論大会
夏季スポーツ大会
- 9月
北星祭
- 11月
修学旅行
(2年生・沖縄4泊5日)
- 12月
冬季スポーツ大会
クリスマス礼拝
- 1月
スキー授業 (1・2年生)
- 2月
卒業礼拝
予餞会
スキー遠足
- 3月
卒業式

生徒と教師で つくりあげていく 学校生活。

“分けない” “区別しない”

「京都大学・大学院生主体課題探究・討論 研究開発プログラム
平成20年度研究成果報告書」(抜粋)

もともと、北星余市では生活指導と教科指導を二軸に据え、教員一人ひとりが心理的観点を持って可能な限りきめ細かに生徒に接するという姿勢を心がけている。つまり、教員がそれぞれの経験と自学によって生徒の心理的なクアも請け負っている。そのために、担任している以外の生徒に対しても他の教員が積極的に関わったり、教員の中で研修会を開いたり、生徒それぞれの個を大切にするための工夫がなされてきた。(中略)

つまり、北星余市はクラスという集団の中で生徒一人ひとりの“人間力”を育てていくことを大切にしている。生徒と教員の個々の関わりももちろん支えとして機能しつつも、生徒が成長していく原動力としては、何よりも「自分の教室に入り、そこで様々なことを学んでいく」ということが重要視されているのだろう。(中略)

一貫して“分けない”“区別しない”という姿勢をとっていること、そして、それぞれの教員が学校の方針や生徒達それぞれの状態を共有し、複数の目で心理的サポートに携わっていること、また寮という生活の場での受け皿があり、それぞれが独立しつつうまく連携しあっていることが、“北星余市にSC(スクールカウンセラー)はいない”という現状をもたらしているのではないだろうか。



年間行事

知識から知恵へ。
大きく成長する!

本校は生徒の成長を促す上で、学校行事をととも重要なものとして位置付けています。「生きる力」は、人と人との関わりの中でこそ養われるものです。協力しながら一つの行事をつくりあげていく過程で生徒は成長し、毎年とてもエネルギーに満ちあふれたものとなっています。

※強歩遠足、学園祭、卒業式に学校見学ができます。ご希望の方は、お問い合わせください。

生徒会活動

エネルギーに満ちあふれ、
生徒会は新入生の憧れです。

“生徒が主役”の本校で行事を担う生徒会。全校生による投票で選ばれた12名の執行部を中心に、様々な行事や自主イベントを企画実行したり、全校生徒の話し合いの場を設けたりしています。自主イベントでは、ライブやゲーム、スポーツ大会などが開催されています。

一年研修会 (5月中旬)

一年生は、積丹半島で1泊の研修会を行います。ハイキングをしたり、集団ゲームを楽しんだりしながら、本校でどんな高校生活を過ごすか、クラスや学年がどう仲良くやっていくかを考えます。

強歩遠足 (6月)

本校の名物行事です。全校生、教師や父母が大自然の中をそれぞれの力に合わせて歩きます。一番短いコースは30キロ、元気な人は50キロ、70キロに挑戦。途中の関門でPTAの父母たちが冷たいお茶や飴をサービスしてくれ、ゴールにたどり着くと、お母さんたちがつくってくれた美味しいうどんが待っています。

校内弁論大会 (7月)

30数年間続けられている伝統行事です。中退や不登校の経験を本校でいかに乗り越えたか等の弁論は、聴衆である他の生徒達に大きな勇気と感動を与えます。

スポーツ大会 (7月、12月)

夏と冬の2回、クラス対抗のスポーツ大会を行います。バレーボール、バトミントン、卓球、大縄跳びなどで若い血潮が沸きに沸きます。

学園祭 (9月)

生徒会執行部のリーダーシップのもと、クラスががっちり力を合わせ、新しいものを創りだそうと頑張る場。ユニークな模擬店などクラス企画、合唱コンクール、太鼓演奏、父母のコーラス「北雀」、絵画や写真作品展、PTA食堂「おふくろの味」、全国名産品バザー、中庭でのライブや催しものなど盛りだくさん。

修学旅行 (2年生の11月)

「平和」学習の一環として、4泊5日で沖縄の戦跡を訪ね、平和の大切さを学びます。また、沖縄ならではのマリンスポーツを楽しんだり、青い空と海に心を癒したりと、南国の自然を満喫します。生徒による実行委員会が企画に力を発揮します。

卒業式 (3月)

3年生から下級生に、みんなでつくりあげてきた「北星余市」を託されます。下級生はそんな先輩の姿を見て、自分も必ず卒業することを改めて誓うのです。



Q 北星余市について、もっと詳しいことを知りたい。

①HP、ブログ、Facebook をご覧ください。

HPには全国の教育相談会開催日程、電話相談所、寮・下宿、卒業生の言葉などが掲載されています。リンク先のPTAのHP掲示板で、体験談などアドバイスを受ける若者もいます。ブログでは写真入りで日々の生活を、FacebookではTsunagaru Projectなどの情報も紹介しています。

②Youtubeスライドショー

生徒たちの様子をスライドショー動画にまとめてあります。2013年は卒業式、春の1年研修会、強歩遠足、初夏の昼休み時間などがアップ済みで随時更新していきます。
<http://www.youtube.com/user/hokuseyoichi/>

③教育相談会へお越しください。

8月～12月、全国各地で学校説明・個人相談会などを行っています。本校に進学を考えている方はもちろん、不登校や中退などの悩みを抱えているものの、北海道は遠い…という方も、気軽にお越しください。本校は全国にネットワークがありますので、何らかのアドバイスはできると考えています。行事などの際に学校見学会も実施しています。

④学校見学へお越しください。

「入学したいけど、ちょっと不安」。そんな方は、ぜひ一度学校を見に来てください。本校ではいつでも学校見学を受け付けています。おすすめは平日のお昼頃。授業や休み時間など生徒の様子がよくわかります。希望者は下宿の見学もできます。事前にお電話ください。

⑤各地にPTA・PTAOB会があります。

北海道・東日本・西日本の3支部に、教育相談会や行事、交流会などに活発に参加いただいております。親や卒業生の生の声を聞けます。毎年出版されている『親たちの卒業文集』も参考になります。

⑥本を参考にしてください。

『しょげてんな!!』(2007年)をご一読ください。生徒たちがつくりあげた一冊です。



『しょげてんな!!』
ひとりで悩む君へ
「北星余市」から15人のエール
(教育史料出版会/1,630円)
*その他の出版物については、P10
フレット3頁をご参照ください。

Q 経済的負担が厳しく、進学は難しい。

就学支援金制度、奨学金制度などがあります。

本校は就学支援金制度と奨学金制度等を利用する方法を薦めています。また生徒やPTAは情報交換をし、帰省方法の工夫など日常的に様々な工夫をしています。

■就学支援金制度

世帯の収入に応じて、月額 9,900円を1.5倍～2.5倍した額を授業料に充当します。
*ただし、所得制限により支給されない場合があります。
*支給期間は最大36月です。他の高校等に在籍歴がある場合は通算されます。

■新設 入学金減免制度

本校に入学を許可された生徒のうち、入学金減免を希望する場合は、文部科学省の定める就学支援金制度の加算基準(2013年度版)に則って、**2倍加算対象生徒**(市町村民税所得割額が非課税)の世帯について**入学金全額を免除し**、**1.5倍加算対象生徒**(市町村民税所得割額が18,900円未満(平成25年は、18,900円に(イ)16歳未満の扶養親族の数×21,300円、(ロ)16歳以上19歳未満の扶養親族の数×11,100円の合計を加えた額未満))の世帯については**入学金の一部を減免**します。

■授業料軽減制度

基準に該当する世帯には、上限7,000円の補助があります。

■入学金貸付制度

| 種類 | 支給額 | 対 象 |
|-------|------------|------------------------|
| 入学金貸付 | 200,000円以内 | 6月貸与 生活保護又は非課税世帯1年生 |

■学費・寮費等

| 項目 | 金額(円) | 備 考 |
|--------|-----------------|--|
| 受験料 | 14,000 | 全ての入試 |
| 入学金 | 160,000(予定) | 入学時に納入 |
| 授業料 | 29,400 | 毎月指定口座から自動引き落とし ※左記授業料の金額から ■就学支援制度による 支援金を差し引いた金額が 実質の授業料となります。 |
| 施設設備費 | 3,000(予定) | 月 額 |
| 学習活動費 | | 教材、聖書、讃美歌、スキー授業など、4月分授業料と一緒に、口座から引き落とし(年額) |
| (1年生) | 約 50,000 | |
| (2年生) | 約 42,000 | |
| (3年生) | 約 38,000 | |
| 生徒会費 | 12,000 | 年 額 |
| 学校安全会費 | 1,656 | 年 額 |
| PTA会費 | 10,800 | 年 額 |
| 同窓会費 | 5,400 | 1回限り |
| 寮 費 | 57,000～70,000前後 | 3食付き月額。光熱費含む。 |

■奨学金制度 (2014年度)

| 種類 | 支給額 | 対 象 |
|--------------------|------------------------------|---------------|
| 北海道高等学校奨学金(保護者道内生) | 月額 10,000円～35,000円 | 貸与 全学年 |
| 在住都府県奨学金(道外生) | 月額等は所轄都府県により異なるので出願等は保護者が行う。 | 貸与 全学年 |
| 有馬・安孫子・手嶋・時任奨学金 | 年額 100,000円 | 給付 1年以上在学男子1名 |
| スミス・モンク・エバンス奨学金 | 年額 100,000円 | 給付 全学年女子1名 |
| 北星学園学費免除制度 | 授業料の全額免除(最大1年間) | 給付 家計急変家庭 |

*その他各種奨学金があります。*入学後に詳しい説明を行います。

Q 通信制高校や高卒認定試験との違いを知りたい。

仲間とつくりあげていく本校の高校生活。

本校は20年以上前から中退者や不登校経験者を受けて入れている全日制普通科の高校です。主眼はあくまでも集団生活の中での人間形成で、高校の卒業資格取得だけを目的にしているわけではありません。

様々な理由から通信高校や高卒認定試験を選択せざるを得ない若者も多いですが、学校をやり直すというのは思った以上に意思を強く持たなければ成し遂げることはできません。同じような志を持つ仲間が身近にいた方が、結果的には目標への近道だったという例もあります。

本校としては青春時代に利害関係抜きの同世代と本気でぶつかりあい、一生つきあえる友達をつくって欲しいと思います。経験や思い出を今後の人生の糧にして欲しいと願っています。



Q 入学試験について教えて

大切なのは「思い」。

様々な入試方法がありますが、近年は面接試験のみの「予約面接試験」を選択する受験生が多くなっています。受験に際して大切なのは「北星余市でがんばりたい」という思い。学力や欠席日数、過去の出来事などにとらわれず、がんばりたいと自分の将来を真剣に考えているその気持ちを大切にしたいと考えています。

詳しくは入試要項をご覧ください。



「進路指導」は「自分探し」の糸口を示すものと考えています。

目的地は一つじゃない。

ここ数年の本校卒業生の進路状況は、進学(大学、短大、専門学校)が74%、就職その他が26%となっています。昨今の不景気の中では就職を選択していくことの方が強い精神力を必要とされます。家族や家庭の経済状況などから、涙ぐましい努力で就職内定にこぎつけていく生徒もいます。

進学も就職も、人生について考え、自分の判断を大切に踏み出した一歩に過ぎません。目的地は一つではないのです。

これまでの卒業生の進学先 (過去3年間)

【道内大学・短期大学】

北星学園大学、北海道工業大学、酪農学園大学、札幌学院大学、札幌国際大学、苫小牧駒沢大学、北海道情報大学、北翔大学、札幌大学、札幌大谷大学、北海道自動車短大

【道外大学・短期大学】

国際基督教大学、明治学院大学、青山学院大学、東北学院大学、大阪経済法科大学、大阪国際大学、拓殖大学、ものづくり大学、茨城キリスト教大学、浦和大学、活水女子大学、桜美林大学、名古屋学院大学、多摩大学、四天王寺大学、上武大学、東亜大学、東海大学、東京工芸大学、大成学院大学、徳島文理大学、明海大学、城西国際大学、城西大学、神戸海星女子学院大学、和光大学、宮崎国際大学、京都精華大学、九州国際大学、広島文教女子大学、カリフォルニア州立大学イーストベイ校、エバークリン州立大内E Fシアトル校

【専門学校】

ハイテクノロジー専門学校、ビーナスアカデミー、ヒューマンアカデミー、ベルエポック専門学校、旭川福祉専門学校、岡山県立南部高等技術専門学校、京都保育福祉専門学校、郡山健康科学専門学校、経専学園経専北海道どうぶつ専門学校、経専北海道保育専門学校、国際介護福祉専門学校、国際情報工科大学校、砂川障害者能力開発校、埼玉自動車大学校、札幌ベルエポック製菓専門学校、札幌ベルエポック美容専門学校、札幌医学技術福祉専門学校、札幌医療秘書福祉専門学校、札幌科学技術専門学校、北海道理容美容専門学校、光塩調理専門学校、経専調理製菓専門学校、池上学院グローバルアカデミー専門学校、北海道ハイテクノロジー専門学校、札幌福祉医療専門学校、札幌幼児保育専門学校、首都医校、盛岡医療福祉専門学校、青森県立弘前高等技術専門学校、帯広コア学園帯広コア専門学校、大原法律公務員専門学校、中日本航空専門学校、東京自動車大学校、日産横浜自動車大学校、日本リハビリテーション専門学校、日本動物専門学校、福島介護福祉専門学校、北海道エコ・動物自然専門学校、北海道中央調理技術専門学校、北海道立札幌高等技術専門学院、北海道立北見高等技術専門学院、名鉄自動車専門学校、沖縄ウェル専門学校、神戸ベルエポック美容専門学校、日本工学院八王子専門学校、東日本栄義医療専門学校、山野美容専門学校、大坂バイオメティカル専門学校、東京アニメーションカレッジ専門学校、麻布ビューティーカレッジ、大宮ビューアート専門学校、大宮こども専門学校、東京製菓学校、ESPミュージカルアカデミー、ハリウッド大学院大学付属ハリウッドビューティー専門学校、静岡県西部理容美容専門学校

推薦制度を活用して7割が進学

進学者は、主に指定校推薦や一般推薦制度を利用して進学しています。人間としてたくましく成長し、小論文や面接などに強みを発揮できるのが、本校教育の特長です。

北星学園は120年の歴史と伝統を持つ学校法人です。系列の北星学園大学には学園内高校として進学枠が保障されています。他にも推薦枠のある大学が多数あります。

■指定校推薦大学

北星学園大学
経済学部・文学部・社会福祉学部・短期大学部

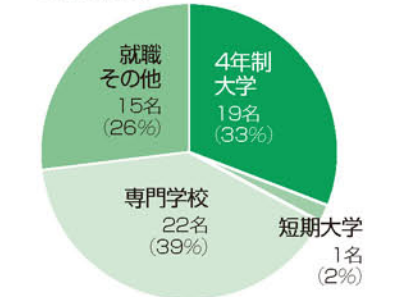
キリスト教学校教育同盟校：

酪農学園大学・敬和学園大学・東北学院大学・恵泉学園大学・名古屋学院大学・金城学院大学・聖学院大学・三育学院大学・国際基督教大学・東京神学大学・明治学院大学・聖隷クリストファー大学・西南学院大学・松山東雲女子大学・活水女子大学

その他私立大学

京都精華大学・北海道工業大学・東海大学・日本大学・関東学院大学・中部学院大学・追手門学院大学・立正大学・桜美林大学・大阪経済法科大学・徳島文理大学・札幌大学 他

■47期生(2014年3月卒業/57名)の進路状況



卒業生より

39期卒業生 高畑 マキ



■私は2003年に北星余市高校に入学し2006年に卒業しました。今思うとたった3年間という期間でしたが、仲間や、先生方、北星余市高校を中心とし集まった方々と過ごしたたくさんの思い出があります。

■入学したばかりの私は、授業はさぼるし問題を起こしては謹慎処分に入る、先生方や寮父母さんにとっては手のかかる生徒であったと思います。また、反抗期真っ盛りで両親に対しても反発ばかりしておりましたので、謹慎処分になりわざわざ富山県から迎えに来てくれた両親にも感謝と謝罪の言葉ひとつ言えないどうしようもない娘でした。

■私は中学生の頃に、教師に「学校に来るな」とか「野蠻人だ」とか言われたことがきっかけで不登校になりましたので、大人に対しての不慣れはかなりのものでした。

■しかし、普通だったら見放されてしまうような問題を繰り返した私に対して、北星余市の大人はあたたかく、そしてしつこく、しつこく叱りつけてくださいました。大人の自分が自分のしでかしたことで涙を流してくれたこともあり、「学校を辞めたい」という私を一晩中説得してくれたこともありました。この北星余市には私が出会ったことのない大人達がいました。そして、「生徒会に入りたい」「合唱コンクールでピアノを弾いてみたい」「大学でもっと勉強してみたい」。

私が自分の道を歩み始めるたび、自分のこと以上に本当に喜んでくれました。誰かに期待されることがなかった私にとっては恥ずかしいけれど本当に嬉しかったのを覚えています。

■またこの学校で私はたくさんの「仲間」と出会いました。北星余市では友人達を「仲間」と呼びます。誰に教えられた訳でもないのですが、代々そのような伝統があります。この学校の生徒は誰もが何かに抱えて入学してきます。共に成長して助け合う3年間を過ごす中で、「同志」という感情が生まれることから自然とそう呼ぶようになるのだと思います。北星で出会った仲間は、一生の仲間です。卒業し各地にバラバラになってしまいましたが、卒業式から5年以上経った今でも機会があれば同窓会と称して集っています。

■その時に「あの時ヤンキーだったあいつが立派にサラリーマンしてるよ」とか「あいつ服飾デザイナー目指してこの前Tシャツ販売されたらしいよ」とか近状を話すたびに、みんなの頑張っている姿に励まされます。私も、当時はどうしようもなく周囲に迷惑ばかりかける問題児でしたので、もし北星余市で更生していなければ、今頃その日暮らしの生活を送り、未だに両親を不安にさせてしまっていたのではないのでしょうか。現在の私は、大学を卒業し、希望した企業に内定をいただきその会社の店舗で店長を務めています。忙しい毎日ではありますが、やりがいもありとても充実しています。信頼関係の大切さや真摯に頑張ることは北星余市で学び、今の生活に活かしていることだと感じます。



余市町



Hokusei Yoichi

「余市へ行く」が、
「余市へ帰る」へ。
生徒たちの
第二のふるさとです。



シリハ岬は余市町民や北星余市にとっては、「ふるさと」のシンボルです。アイヌ語で「山の頭」を意味します。

余市町は北海道でも気候に恵まれた土地として知られ、海、山、川やリンゴ、サクランボ、ブドウなどの果樹園の広がる風景は南仏に例えられることもあります。温泉の他、歴史有るニッカウキスキー余市工場、ブドウ畑とワイン工場、縄文時代の遺跡、ニシン漁の往時をしのぼせる建造物など見どころもたくさんあり、本州や道内から移住してくる人もいます。冬はキロリゾートなどでスキーも楽しめます。小樽や札幌へはJRで30分～1時間。賑やかな都市へ適度な距離を保つ静かな大自然・余市は、学びの場として最適です。



円山公園は空高く、天空の庭のような気持ち良さ。日本海の眺望も素晴らしい、ガラスのピラミッドの温室では様々な花を楽しめます。



余市図書館は充実した蔵書、映画上映会の開催など、熱心に町の文化を担っています。余市町に縁のある作家・椎名誠さんが寄贈した「椎名誠文庫」もあります。



赤い屋根と石造りの佇まいが本場スコットランドを思わせるニッカウキスキー余市工場は、1934年に建設されたもの。多くの観光客が訪れています。



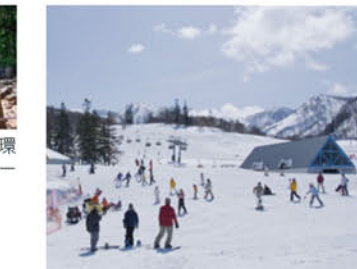
旧下ヨイチ運上家や旧福原漁場では、隆盛を極めたニシン漁と往時の北海道、余市の姿を学ぶことができます。



フルーツ街道は、イチゴやサクランボ狩りで道内でも有名な観光地です。



忍路環状列石、西崎山環状列石とはストーンサークルのこと。



学校から海までは歩いて10分くらい。短い北海道の夏でもいつでも楽しめるのが魅力です。放課後、浜で語らう生徒の姿はもう伝統になりました。冬は浜風がやや強いものの、雪を楽しめます。スキーやスノボに放課後はもちろん、土日にはニセコ・赤井川(キロロ)まで足を伸ばす生徒もいます。



寮・下宿は余市町内に18軒。タイプや規模は様々です。個室がほとんどですが、2人部屋のところもあります。※地図中の■は、下宿のある場所です。



寮・下宿は余市町内に18軒。タイプや規模は様々です。個室がほとんどですが、2人部屋のところもあります。※地図中の■は、下宿のある場所です。



Tsunagaru Project

プロジェクト6年目、開校50周年を迎え
未来へ思うこと

■1965年4月、本校は余市町の誘致を受け、産声をあげました。この50年間、本校は「全ての子どもたちに教育を」という理念に依りながら、民主的な学校創りを営んできました。未曾有の生徒減の中で、「進学」や「スポーツ」や「管理」を看板に生き残ろうとする高校が多い中、そこからはじき出されてきた子どもたちに寄り添いながら立ち直らせ、自立させるための高校として、日本で初めて「高校中退者も受け入れよう」と決意したのが1988年。本校の新たな一歩でした。以降、本校は、全国からやってくる高校中退者、小中学校時代「不登校・登校拒否」をしても「他のみんなと同じように高校に行きたい」という生徒の意欲を認め受け入れてきました。■そして、今。私たちは、その理念を曲げず、積み上げて来た実践を大切にしながら、さらに教育内容を充実させ、新たな一歩を踏み出します。それは「未来」という可能性を秘めた子どもたちが、来るべき将来、そして混迷極まる社会において、幸せに生きていてほしいという祈りから来ています。■学校は授業と部活のためだけに往復する場所ではありません。「生き方」を学ぶ大切な場所です。子どもたちの秘めた力を最大限に引きだし、自ら育むための種を植え、人の可能性を追求する教育の場です。■基礎的な知識や学力、進学や就職のための資格取得の勉強に加え、様々な経験が大切です。経験は

全ての土台になります。人は出来事に向き合い、経験を重ねるほど、人格や生き方の幅が広がり、豊かになっていくからです。既知はさらに深まり、未知は人の世界を広げます。■子どもたちは、家庭内、学校、地域などの場で、経験を積みながら、自立への道を歩んでいます。それら全てを「教育」と考えたとき、私たち学校機関が高校3年間で子どもたちに与えられることは限られています。私たちは、私たちがすべきことを実践しながら、私たちにないものを持っていく方々と連携しながら、より幅広い機会を子どもたちに与えることを目指します。■Tsunagaru Projectを掲げて6年目に入ります。この間、様々な団体、個人的に関わりを持って下さる方と新たにつながりを持たせていただきました。プロジェクト開始以前から、本校に関わりをもってくださった方たちとの相乗効果もあり、本校にたくさんの機会と豊かさを与えていただいています。それらはすべて、我々、学校機関だけでは用意することの難しいものであり、未来ある子どもたちにとって良い機会となりました。■50年を迎えるにあたり、このTsunagaru Projectをさらに深め、様々な機会を子どもたちに与え、子どもたちが豊かに幸せに自立して生きていけることを目指して、教育活動を営んで参ります。



総合講座の充実
チョークアート
地元・余市を拠点に活躍するLovei (ラビィ)さんの「地域でのつながりを大切にしたい」との申出から実現した講座。



土とふれ合う
花壇のデザイン
NPO法人余市教育福祉社の協力で花壇のデザインを。何をどう植えるか、育てたものをどう活用するかの話も広がっています。



視察・交流
セカンドチャンス!
少年院出院者が経験と希望を分かち合い、仲間として共に成長する団体「セカンドチャンス」が生徒たちに貴重な体験談を。



地域に心を育まれる
ボランティア
「ボランティアは誰かに何かをしてあげることでもあるけど、同時に自分の心も豊かになる。ありがたいとって笑顔で言われるから」と生徒談。

- 【主な取り組み】※授業や生徒会・部活動他による取り組み、再認識中の伝統行事など。
- 訪問・視察：大阪府立布北高等学校 京都市立御池中学校 自由の森学園高等学校 さいたまユースサポートネット 新名学園旭丘高等学校 プリースクールみなも NPO法人ForLife 道立緑ヶ丘病院
 - 研修会(校内会)：教師という仕事と学校現場の現在 (日本教育学会北海道地区・北海道大学教育学研究院共催) セカンドチャンス! 北海道 山梨不登校の親の会「ぶどうの会」9周年のつどい 登校拒否・不登校問題全国のつどいin帯広(実行委参加) 「非行」を考える全国交流会 ユースワークについて学ぶ (YEC・両角氏、札幌市若者支援総合センター・若林氏) 自由の森学園理事長・鬼澤氏 漂流教室の活動と余市町内に置ける学習サポート活動を学ぶ (漂流教室・相馬氏) 発達障害を抱えた生徒の対応を考える (エルムアカデミー・中塚氏) 地域との連携を考える (オオドリ大学・箱根氏) 異物講演 (セカンドチャンス! 大坂代表・野田氏)
 - 講演会・シンポジウム・講師派遣：2+1号SHIN屋コラボトーク伝えたいこと (かざたびさ・佐伯氏) 「イキイキと生きる道路をひらくために」親・学校・地域にできることを考えるシンポジウム (エルムアカデミー、自由の森学園高校共催) 『働く』ために必要なこと就労不安定にならないために (品川氏) 子どもたちを「支える」ことを考える講演・シンポジウム (NPO法人関西こども文化協会共催) 子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会 余市ライオンズクラブ 北星学園大学の講義 (生活指導研究、北星学、映像技術演習I・II)
 - 視察・受入・交流：豊ヶ岡学園 CORE+ NPO法人Rights・小林氏 立花学園高等学校 北海道大学・横井ゼミ 北星学園大学・片岡ゼミ 和歌山大学・船越先生 北海道大学・光本先生 札幌市豊平区西岡育成委員会 セカンドチャンス! (名古屋、京都、福岡、佐賀) プリースクールみなも・今川氏 結空間・中尾氏 セカンドチャンス! (京都・富岡氏、名古屋・高坂氏、福岡・吉永・城戸氏、静岡・森川氏ほか) 富田ふれ愛塾 富山氏 関西こども文化協会 是るにれの会
 - 地域交流・ボランティア：北海道余市養護学校 高齢者総合福祉施設フルーツ・シャワーよいち 特別養護老人ホーム仁木長寿園 グループホームに木やすらぎの里 余市町主催地域清掃活動 イオン余市店主催清掃活動 青年ボランティアアクションinフィリピン 国際ソロプチミスト余市 旗丹ソラン味覚祭 ぼれぼれペンギンくらぶ 北海ソラン祭りパレード ワークエンドサークル 味覚の祭典『よいち大好きフェスティバル』 余市町学童保育「若あゆクラブ」「なよよクラブ」「強いクラブ」 日本基督教団余市教会主催雪かきボランティア 北後志地域自立支援協議会 中小企業同友会 イベント参加 (昭和南山国際雪合戦、全道高校綱引き大会、仁木町YOSAKOIチーム舞仁咲乱) 強歩遠足、一般市民へ開放 さっぽろ若者サポートステーションへ一部発達業務委託 NPO法人オオドリ大学と連携 たるとの会、当事者研究、シタの会 余市町保護司会と会合 NPO法人余市教育福祉社、花壇整備協力 余市宇宙記念館の星座図ポスター監修 ワイン・プロジェクトでワイナリー「トアール」、北星学園大学より協力 日本基督教団余市教会で北星アデーとして弁論発表